

アモス書

第一章一テコアの牧者の中なるアモスの言 是はユダの王ウジヤの世イスラエルの王ヨアシの子ヤラバアムの世地震の二年前に彼が見された者にてイスラエルの事を論るなり其言に云くニエホバ、シオンより呼號りエルサレムより聲を出したまふ牧者の牧場は哀きカルメルの巔は枯るニエホバかく言たまふダマスコは三の罪あり四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ即ち彼らは鐵の打禾車をもてギレアデを打り四我ハザエルの家に火を遣りベネハダデの宮殿を焚ん五我ダマスコの關を碎きアベンの谷の中よりその居民を絶のぞきてエデンの中より王の杖を執る者を絶のぞかんスリアの民は擄へられてキルにゆかんエホバこれを言ふ六エホバかく言たまふガザは三の罪あり四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ即ち彼らは俘囚をことごとく曳ゆきてこれをエドムに付せり七我ガザの石垣の内に火を遣り一切の殿を焚ん八我アシドドの中よりその居民を絶のぞきアシケロンの中より王の杖を執る者を絶除かん我また手を反してエクロンを撃んペリシテ人の遣れる者亡ぶべし主エホバこれを言ふ九エホバかく言たまふツロは三の罪あり四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ即ち彼らは俘囚をことごとくエドムに付しました兄弟の契約を忘れたり一〇我ツロの石垣の内に火を遣り一切の殿を焚ん一二エホバかく言

たまふエドムは三の罪あり四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ即ち彼は劍をもてその兄弟を追ひ全く憐憫の情を斷ち恒に怒りて人を害し永くその憤恨をたくはへたりニ我マツンに火を遣りボツラの一切の殿を焚ん三エホバかく言たまふアンモンの人々は三の罪あり四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ即ち彼らはその國境を廣めんとてギレアデの孕める婦を剖たり四我ラバの石垣の内に火を放ちその一切の殿を焚ん是は戰鬪の日に吶喊の聲をもて爲され暴風の日に旋風をもて爲されん五彼らの王はその牧伯等と諸共に擄へられて往かんエホバこれを言ふ

第二章一エホバかく言たまふモアブは三の罪あり四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ即ち彼はエドムの王の骨を焼て灰となせりニ我モアブに火を遣りケリオテの一切の殿を焚んモアブは噪擾と吶喊の聲と喇叭の音の中に死ん三我その中より審判長を絶除きその諸の牧伯を之とともに殺さんエホバはこれを言ふ四エホバかく言たまふユダは三の罪あり四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ即ち彼らはエホバの律法を輕んじその法度を守らずその先祖等が従ひし偽の物に惑はさる五我ユダに火を遣りエルサレムの諸の殿を焚ん六エホバかく言たまふイスラエルは三の罪あり四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ即ち彼らは義者を金のために賣り貧者を鞋一足のために賣る七彼らは弱き者の頭に地の塵のあらんことを喘ぎ

て求め柔かき者の道を曲げ又父子共に一人の女子に行て我聖名を汚すハ彼らは質に取れる衣服を一切の壇の傍に敷きてその上に僅し罰金をもて得たる酒をその神の家に飲む九嚮に我はアモリ人を彼らの前に絶たりアモリ人はその高きこと香柏のごとくその強きこと橡の樹のごとくなりしが我その上の果と下の根とをほろぼしたり一〇我は汝らをエジプトの地より携へるのほり四十年のあひだ荒野において汝らを導き終にアモリ人の地を汝らに獲させたり二我は汝らの子等の中より預言者を興し汝らの少者の中よりナザレ人を興したりイスラエルの子孫よ然るにあらずやエホバこれを言ふ三然るに汝らはナザレ人に酒を飲ませ預言者に命じて預言するなかれと言ひ三視よ我麥束を積滿せる車の物を壓するがごとく汝らを壓せん四その時は疾走者も逃るに暇あらず強き者もその力を施すを得ず勇士も己の生命を救ふこと能はず五弓を執る者も立ことを得ず足駛の者も自ら救ふ能はず馬に騎れる者も己の生命を救ふこと能はず一六勇士の中の心剛き者もその日には裸にて逃んエホバこれを言ふ

第三章一イスラエルの子孫よエホバが汝らにむかひて言ところ我がエジプトの地より導き上りし全家にむかひて言ところ此言を聴け二地の諸の族の中にて我ただ汝ら而已を知れり此故に我なんぢらの諸の罪のために汝らを罰せん三一人もし相會せずば争で共に歩かんや四獅子もし獲物あらずば豈林の中に吼ん

や猛獅子もし物を攫まずば豈その穴より聲を出さんや五もし罽の設なくば鳥あに地に張れる網にかからんや網もし何の得るところも無くば豈地よりあがらんや六邑にて喇叭を吹かば民おどらかざらんや七邑に災禍のおこるはエホバのこれを降し給ふならずや八夫主エホバはその隠れたる事をその僕なる預言者に傳へずしては何事をも爲たまはざるなり九獅子吼ゆ誰か懼れざらんや主エホバ言語たまふ誰か預言せざらんや九アシドドの一切の殿に傳へエジプトの地の一切の殿に宣て言へ汝等サマリヤの山々に集りその中にある大なる紛亂を觀その中間におこなはるる處遇を觀よ一〇エホバいひたまふ彼らは正義をおこなふことを知ず虐げ取し物と奪ひたる物とをその宮殿に積蓄ふ二是故に主エホバかく言たまふ敵ありて此國を攻かこみ汝の權力を汝より取下さん汝の一切の殿は掠めらるべし三エホバかく言たまふ牧羊者は獅子の口より羊の兩足あるひは片耳を取かへし得るのみサマリヤに於て床の隅またはダマスコ錦の榻に坐するイスラエルの子孫もその救はるること是のごとくらん三萬軍の神主エホバかく言たまふ汝ら聽てヤコブの家に證せよ四我イスラエルの諸の罪を罰する日にはベテルの壇を罰せん其壇の角は折て地に落べし五我また冬の家および夏の家をうたん象牙の家ほろび大きな家失んエホバこれを言ふ

第四章一バシヤンの牝牛等よ汝ら此言を聴け汝らはサマリヤの山に居り弱者を虐げ貧者を壓し又その主にむかひて此に持

きたりて我らに飲せよと言ふニ主エホバ己の聖を指し誓ひて云ふ視よ日汝らの上に臨むその日には人汝らを鉤にかけ汝等の遺餘者を釣魚鉤にかけて曳いださんニ汝らは各々その前なる石垣の破壊たる處より奔出てハルモンに逃往んエホバこれを言ふ四汝らベテルに往て罪を犯しギルガルに往て益々おほく罪を犯せ朝ごとに汝らの犠牲を携へゆけ三日ごとに汝らの什一を携へゆけ五酔いたれる者を感謝祭に獻げ願意よりする禮物を召てこれを告示せイスラエルの子孫よ汝らは斯するを好むなりと主エホバ言たまふ六また我汝らの一切の邑に於て汝らの齒を清からしめ汝ら一切の處において汝らの食を乏しからしめたり然るに汝ら我に歸らずとエホバ言給ふ七また我收穫までには尚三月あるに雨をとどめて汝らに下さずかの邑には雨を降しこの邑には雨をふらさざりき此田圃は雨を得彼田圃は雨を得ずして枯れたりハ二三の邑別の一の邑に躑めきゆきて水を飲ども飽ことあたはず然るに汝ら我に歸らずとエホバ言たまふ九我枯死穀と朽腐穂とをもて汝等を撃なやませりまた汝らの衆多の園と葡萄園と無花果樹と橄欖樹とは蝗これを食へり然るに汝ら我に歸らずとエホバ言たまふ一〇我なんぢらの中にエジプトに爲し如く疫病をおこし劍をもて汝らの少き人を殺し又汝らの馬を奪さり汝らの營の臭氣をして騰りて汝らの鼻を撲しめたり然るも汝ら我に歸らずとエホバいひたまふ一我なんぢらの中の邑を滅すことソドム、ゴモラを神の滅したまひ

し如くしたれば汝らは焔の中より取いだしたる燃柴のごとくなり然るも汝ら我に歸らずとエホバ言たまふニイスラエルよ然ば我かく汝に行はん我是を汝に行ふべければイスラエルよ汝の神に會ふ準備をせよ三彼は即ち山を作りなし風を作り出し人の思想の如何なるをその人に示しまた晨光をかへて黒暗となし地の高處を踏む者なりその名を萬軍の神エホバといふ第五章一イスラエルの家よ我が汝らに對ひて宣る此言を聽け是は哀歎の歌なりニ處女イスラエルは仆れて復起あがらず彼は己の地に扑倒さる之を扶け起す者なし三主エホバかく言たまふイスラエルの家においては前に千人出たる邑は只百人のみのこり前に百人出たる邑は只十人のみのこらん四エホバかくイスラエルに言たまふ汝ら我を求めよさらば生べし五ベテルを求むるなかれギルガルに往なかれベテルシバに赴く勿れギルガルは必ず擄へられゆきベテルは無に歸せん六汝らエホバを求めよ然ば生べし恐くはエホバ火のごとくにヨセフの家に落くだりたまひてその火これを焼んベテルのためにこれを熄す者一人もあらず七汝ら公道を茵陳に變じ正義を地に擲つる者よ八昂宿および參宿を造り死の蔭を變じて朝となし晝を暗くして夜となし海の水を呼て地の面に溢れさする者を求めよ其名はエホバといふ九彼は滅亡を忽然強者に臨ましむ滅亡つひに城に臨む一〇彼らは門にありて勸戒る者を惡み正直を言ふ者を忌嫌ふニ汝らは貧しき者を踐つけ麥の禮物を之より取るこの故

に汝らは鑿石の家を建しと雖どもその中に住ことあらじ 美し
き葡萄園を作りしと雖どもその酒を飲ことあらじ 二 我知る汝
らの愆は多く汝らの罪は大なり 汝らは義き者を虐げ賄賂を取
り門において貧き者を推搡 三 是故に今の時は賢き者黙す 是
惡き時なればなり 四 汝ら善を求めよ惡を求めざれば汝ら
生べし また汝らが言ごとく萬軍の神エホバ汝らと偕に在さん 一
五 汝ら惡を惡み善を愛し門にて公義を立てよ 萬軍の神エホバある
ひはヨセフの遺れる者を憐れみたまはん 一六 是故に主たる萬軍
の神エホバかく言たまふ 諸の街衢にて啼ことあらん 諸の大路
にて人哀哉哀哉と呼ん 又農夫を呼きたりて哀哭しめ 啼女を招
きて啼しめん 一七 また諸の葡萄園にも啼こと有べし 其は我汝ら
の中を通るべければなり 一八 エホバこれを言たまふ 一八 エホバの日
を望む者は禍なるかな 汝ら何とてエホバの日を望むや 是は昏
くして光なし 一九 人獅子の前を逃れて熊に遇ひ 又家にいりてそ
の手を壁に附て蛇に咬るるに死も似たり 二〇 エホバの日は昏く
して光なく 暗にして耀なきに非ずや 二 我は汝らの節筵を惡み
かつ藐視む また汝らの集會を悦ばじ 三 汝ら我に燔祭または
素祭を獻ぐるとも 我之を受納れじ 汝らの肥たる犢の感謝祭は
我これを顧みじ 三 汝らの歌の聲を我前に絶て 汝らの琴の音は
我これを聴じ 二四 公道を水のごとくに正義をつぎざる河のごと
くに流れしめよ 二五 イスラエルの家よ 汝らは四十年荒野に居し
間 犠牲と供物を我に獻げたりしや 二六 かへつて 汝らは汝らの王

シクテを負ひ 汝らの偶像キウンを負へり 是即ち汝らの神とす
る星にして 汝らの自ら造り設けし者なり 二七 然ば我汝らをダマ
スコの外に移さん 萬軍の神となふるエホバこれを言たまふ
第六章 一身を安くして シオンに居る者思ひわづらはずして サマ
リヤの山に居る者 諸の國にて勝れたる國の中なる間高くして
イスラエルの家に就きたがはるる者は禍なるかな 二カルネに
涉りゆき 彼處より 大ハマテに至り またベリシテ人のガテに下り
て 視よ 其等は此二國に愈るや 彼らの土地は汝らの土地よりも
大なるや 三 汝等は災禍の日をもて尚遠しと爲し 強暴の座を近づ
け 四 自ら象牙の牀に臥し 寢臺の上に身を伸し 群の中より 羔羊を
取り 圈の中より 犢牛を取て 食ひ 五 琴の音にあはせて 唄ひ 噪ぎ 夕
ビテのごとくに 樂器を製り出し 六 大罍をもて 酒を飲み 最も貴
とき膏を身に 抹り 七 ヨセフの艱難を憂へざるなり 七 是故に 今彼等
は擯はれて 俘囚人の眞先に 立て 往んかの身を伸したる者等の 嘈
の聲止べし 八 萬軍の神エホバ言たまふ 主エホバ己を指て 誓へ
り 我ヤコブが誇る所の物を 忌嫌ひ その宮殿を惡む 我この邑と
その中に 充る者とを 付すべし 九 一の家に 十人 遣り すると 皆死
ん 一〇 而して その親戚すなはち之を 焚く者 その死骸を 家より 運
びいださんとて 之を取あげ また その家の奥に 潛み居る者に向ひ
て 他になほ 汝とともに 居る者あるや と言ふとき 對へて 一人も 無
しと言ん 此時かの 人また 言べし 黙せよ エホバの名を 口に 擧ぐ
ること 有べからずと 一 視よ エホバ命を下し 大なる家を 撃て 墟址

變らん 死屍おびただしくあり人これを遍き處に投棄ん 默せよ
四 汝ら喘ぎて貧しき者に迫り且地の困難者を滅す者よ之を聴け
五 汝らは言ふ月朔は何時過去んか 我等穀物を賣んとす 安息日
は何時過去んか 我ら麥倉を開かんとす 我らエバを小さくシケ
ルを大きく偽の權衡をもて欺く事をなし 六 銀をもて賤しき者を
買ひ鞋一足をもて貧き者を買ひかつ屑麥を賣いださんと 七 エホ
バ、ヤコブの榮光を指て誓ひて言たまふ 我かならず彼等の一切
の行爲を何時までも忘れじハ之がために地震はざらんや地に住
る者みな哭かざらんや地みな河のごとく噴あがりん エジプト
の河のごとく湧あがり又沈まん 九 主エホバ言たまふ 其日には我
日をして眞晝に沒せしめ地をして白晝に暗くならしめ 〇 汝ら
の節筵を悲傷に變らせ汝らの歌を盡く 哀哭に變らせ 一切の人に
麻布を腰に纏はしめ 一切の人に頂を剃しめ 其日をして獨子を喪
へる哀傷のごとくならしめ 其終をして 苦き日のごとくならし
めん 二 主エホバ言たまふ 視よ日 至らんとす 其時 我饑饉を
此國におくらん 是はパンに乏しきに非ず 水に渴くに非ず 埃ホ
バの言を聴こと 饑饉なり 三 彼らは海より海とさまよひ歩き
北より東と奔まはりて 埃ホバの言を求めん 然ど之を得ざるべ
し 三 其の日には 美しき處女も 少き男も ともに渴のため絶え
らん 四 かのサマリヤの罪を指て誓ひ ダンよ 汝の神は活くと 言
ひまた ベエルシバの路は活くと 言る者等は 必ず 仆れん 復興
ことあらじ

第九章 我觀るに主壇の上に立て言たまはく 柱の頭を撃て 鬨を
震はせ之を打碎きて 一切の人の首に落かからしめよ 其遣れる
者をば 我劍をもて 殺さん 彼らの逃る者も 逃おほすことを得
ず 彼らの遁るる者も 逃たすからじ 二 假令かれら陰府に掘くだると
も 我手をもて之を其處より曳いださん 假令かれら天に攀のぼ
るとも 我これを其處より曳おろさん 三 假令かれらカルメル巔
に匿るとも 我これを搜して 其處より曳いださん 假令かれら
海の底に匿れて 我目を逃るとも 我蛇に命じて 其處にて之を咬
しめん 四 假令かれらその敵に擄はれゆくとも 我劍に命じて 其處
にて之を殺さしめん 我かれらの上に 我目を注ぎて 災禍を降さ
ん 福祉を降さじ 五 主たる萬軍の埃ホバ地に 捫れば 地鎔け 其の中
に住む者みな 哀む 即ち 全地は 河のごとくに 噴あがり 埃ジプト
の河のごとくに また 沈むなり 六 彼は樓閣を天に作り 穹蒼の基を
地の上に置ゑ また 海の水を呼て 地の面にこれを斟ぐなり 其名
を 埃ホバといふ 七 埃ホバ言たまふ イスラエルの子孫よ 我は汝
らを視こと 埃テオピア人を觀がごとくするにあらずや 我はイ
スラエルを エジプトの國より ペリシテ人を カフトルより スリア
人を キルより 導き來りしにあらずや 八 視よ 我主 埃ホバ 其の目を
此罪を犯すところの國に 注ぎ之を地の面より 滅し絶ん 但し 我
は ヤコブの家を盡くは 滅さじ 埃ホバこれを言ふれ 我すなは ち命
を下し 篩にて物を篩ふがごとく イスラエルの家を 萬國の中に 篩
はん 一粒も 地に 落ちざるべし 〇 我民の罪人 即ち 災禍われら

に及ばず我らに降らじと言をる者等は皆劍によりて死ん二其
日には我タビデの倒れたる幕屋を興しその破壊を修繕ひその
傾一圯たるを興し古代の日のことくに之を建なほすべし二而
して彼らはエドムの遺餘者および我名をもて稱へらるる一切の
民を獲ん此事を行ふエホバかく言なり二三エホバ言ふ視よ日
いたらんとすその時には耕者は刈者に相繼ぎ葡萄を踐む者は
播種者に相繼がんまた山々には酒滴り岡は皆鎔て流れん二四我
わが民イスラエルの俘囚を返さん彼らは荒たる邑々を建なほ
して其處に住み葡萄園を作りてその酒を飲み園圍を作りてその
果を食はん二五我かれらをその地に植つけん彼らは我がこれに
與ふる地より重ねて拔とらることあらじ汝の神エホバこれ
を言ふ